

# 美的感覚の発達とその指導 (I)

—音 楽—

佐 伯 正 一

## I. 研究目的

音楽教育においては美的感覚の教育が出発点であり、また終着点でもある。

これは生徒が、やがて社会人となるためには音楽がそれほど直接的ではないということ、あまり重要視されていない一般的傾向があるようである。(専門的に進む者は別だが)

それで、音楽は人間形成には重要であり、生活を豊かにし、社会を明るくするということは我々教育者には立派な目的であっても、生徒自身にはそれほど響かないようである。

音楽学習において、生徒の最も魅力であるのは、音楽の美しさとして味わうことであろう。そこから、音楽学習の諸作業が、合理的に教育的に引き出されてくるのが自然で、理想的なのではないか。

だから、音楽教育の根本であり、中心となる美的感覚の発達、どのように動いているか、その実態をほり下げ、現在の教育を反省し、将来のよりよき学習へ一歩でも前進すればと考え、ここにこの大それた題目を取り上げてみたわけである。この題目は漠然としてよりどころがないので、むずかしい問題であるが、研究というよりも、研究の足がかりとして、次のような方法をとって、その糸口を得ようとしたものであることを御諒承頂きたい。

この第1回の研究は、中学校1年生を対照として行い。逐次年を追って行い、3年後には何か客観的な結論が出れば幸いである。

## II. 研究方法

生徒の持っている音楽の美的感覚の実態を調査し、その発達をどのように引き出したらいいか、研究の糸口をここに求めたのである。

まず、第1に音楽の基礎調査として、聴覚的な音感覚つまり聴音によって、リズム、メロデ

ィをどのようにつかんでいるか、視唱はどのような曲を、どの程度に歌い得るか、また階名読みはどんな程度にできるか、これ等の事柄によって音楽の基礎を調査することにした。

第2に音楽の感覚的なものとして、曲の感じや、自然な旋律をどのように判断することができるか。

第3に、中学校1年生の教科書の歌曲について、どんな曲を好み、どんな曲が嫌い、また鑑賞曲の理解はどうであろうか。

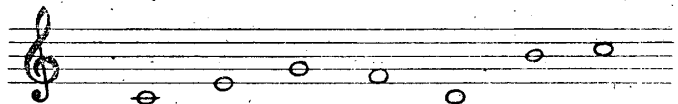
以上の3種類の調査から、中学校1年生の持つ美的感覚の実態をつかみたいと考えた。

## III. 研究経過

研究対照と人数 中学校1年生男女 96名

### 1. 音楽の基礎調査

#### 1. 階名聴音



方法、教師が階名でゆっくり歌ったものを一斉に書き取る法。

表1

	a	b	c	d	e
人数	67	21	6	2	0

- a.....完全にできた者
- b.....少しまちがった者
- c.....約半分まちがった者
- d.....多くまちがった者
- e.....殆んどまちがった者

誤答者は読譜力の不足によるのは勿論であるが、終りのシ、ドを低い方を書いてゐる者も少くないのは、音感の悪いことを意味している(表1)。

#### ロ、リズム聴音



美的感覚の発達とその指導 (I)

方法、上のリズムをピアノで弾き、それをきいて一斉に書き取る法。

表2

	a	b	c	d	e
人数	0	7	16	33	40

a, b, c, d, e は上に同じ。

生徒にとってリズムの模倣は、割合にやさしいようであるが、聴いて書き取るとは可りなむづかしいようである(表2)。いずれにしてもリズムの指導、つまり、音符と音との結びつけによる指導の十分行われることを痛感する。

ハ、旋律聴音



方法 上の旋律をピアノで4回弾いて、その間にこの旋律を一斉に譜に書き取る法。

表3

	a	b	c	d	e
人数	12	12	12	25	35

a, b……は上に同じ

旋律聴音はリズム聴音ほどではないが、むづかしいようである(表3)。

これも音符と音との結びつける指導の必要は同様であるが、音楽学習として困難な問題を含んでいる。

ニ、視 唱



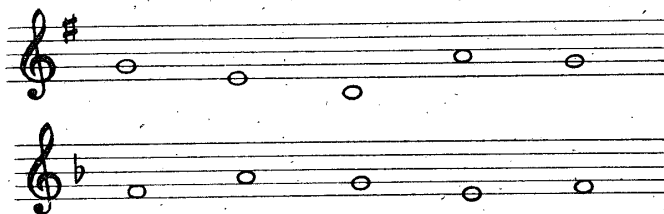
方法 上の曲を板書したものを練習時間を与えないで、直接1人ずつ視唱させた。初めの音だけピアノで指示した。結果は表4を参照。

表4

	A	B	C	D	E
人数	2	19	36	28	11

- A……大変よい
- B……少しよい
- C……普通
- D……少し悪い
- E……大変悪い

ホ、階名読み



方法 上のG, Fの旋律を板書したものを練習時間を与えないで、直接1人ずつ読み、それが階名をどの程度に読めるかを調査した。結果は表5を参照。

表5

	A	B	C	D	E
G	0	25	46	17	8
F	1	24	52	12	7

AB……は上に同じ。

2. 旋律に対する音感覚の調査

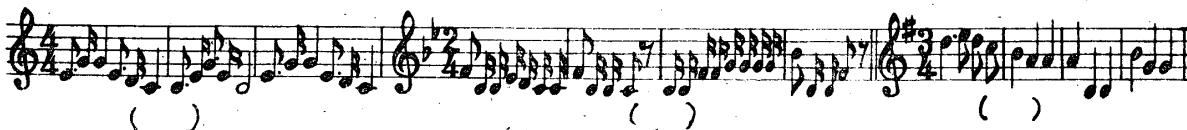
イ、音楽の感じについての調査

次の4つの問題は感じを選択する問題である。(昭和32年度全国高等学校入学試験問題から選択)

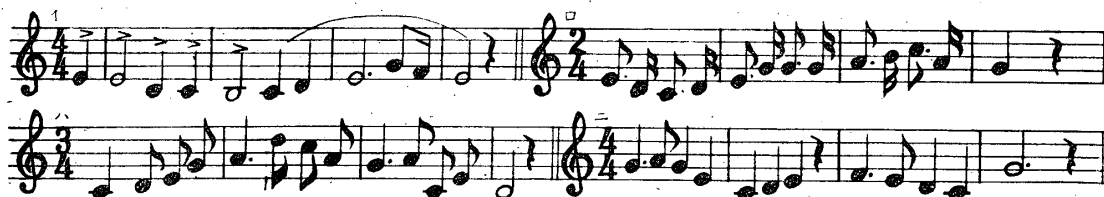
1. 故郷の廃家      イ、力強く堂々と      ロ、こころをこめて      ハ、軽快に      ニ、荘厳に
2. イ、暗くてさびしい感じ      ロ、軽くまい上るような感じ      ハ、力強くひきしまった感じ  
 (      )                                      (      )                                      (      )



3. イ、むじゃきに遊ぶ      ロ、勇ましく歩く      ハ、ワルツを踊る      ニ、静かにものを思う  
 ホ、荒波が打ちよせる



4. 心のはずむような軽快な曲 (      )      重々しい荘厳な曲 (      )



方法 上の1.2.3.4の曲譜をみせて、その旋律をピアノで弾いて聴かせた。結果表6の通り。

表6

問 題	1	2		3			4		
		イ	ロ	ハ	ニ	イ	ハ	ロ	イ
正答数	76	91	67	80	93	87	63	95	70
誤答数	20	5	27	16	3	9	33	1	26

旋律に対する音感覚は大変よくできている。1の音楽の基礎調査で行ったものに比

べると、程度は高いにも拘らずよくできるのは、この面の音感覚の教育の比較的容易であることを考えさせられるのではないか。

2問ロの「軽くまい上がるような感じ」3問ハの「ワルツ」4問イの「重々しい荘厳」の誤答が比較的が多いのは、中学校1年生ではこの言葉の解せない点であろう。

ロ、自然な旋律についての調査  
 音楽の感じについての調査と同様  
 (昭和32年度全国高等学校の学試験問題から選択)

1. 空白の小節に下のイ、ロ、ハの中から適当なものを選べ。



美的感覚の発達とその指導 (I)

2. この4小節の曲に続く適当な旋律を下のイ, ロ, ハから一つ選べ。

3. 空白の小節に下のイロハの中から適当なものを一つを選べ。

4. この4小節の曲に続く適当な旋律を下のイ, ロ, ハから一つ選べ。

方法 イロハの旋律をそれぞれあてはめてピアノで弾いて聴かせ、自然な旋律と思うものをイロハから一つ選ばせる方法。

表7

問 題	1	2	3	4
正 答 数	96	94	78	79
誤 答 数	0	2	18	17

これも大変よくできているので、イの調査の場合と同様のことがいえるのではないか(表7)。

3. 歌唱曲の好き嫌いの調査

方法 教科書(教芸社中学音楽1)の歌曲をみせ、それを教師が歌って聴かせ、これを歌ってみたい好きな曲であるかどうかを調査したもの。

結果 次の表8は好きな人数の多い方から順に配列したもの。

表8 (嫌の人数=96-好む人数)

順	歌 曲 名	好む人数
1	旅 愁	90
2	カッコワルツ	90
3	そりのうた	89
4	クシコスの郵便馬車	89
5	荒 城 の 月	86
6	故 郷 の 廃 家	86
7	故 郷 の 空	84
8	ば ん 歌	83
9	森 の 水 車	82
10	秋 によせて	82
11	め ぐる 春	79

順	歌 曲 名	好む人数
12	遠 足	76
13	冬 の 星 座	76
14	シユーベルトの子守歌	73
15	太 平 洋	70
16	久 し き 昔	68
17	ローレライ	66
18	春のおどり	66
19	山 の う た	61
20	秋 の 夜 半	55
21	友よさらば	50
22	愉快なかじやさん	49
23	アフトンの流れ	28

4. 鑑賞曲の好き嫌いの調査

方法 中学の鑑賞教材から26曲を選んで、その主旋律をレコードによって調査したもの°

好む曲 は楽しめる曲、感じのいい曲、好き

表9 (嫌の人数=96-好む人数)

順	曲 名	好む人数
1	おもちゃの交響曲	94
2	エリーゼの為に	93
3	美しく青きドナウ	91
4	ハンガリア舞曲 No.5	91
5	軽 騎 兵	90
6	オールド ブラック ジョー	89
7	アヴェマリア (シユーベルト)	87
8	弦楽セレナーデ (モーツァルト)	86
9	春 の 海 (宮城道雄)	84
10	水上の音楽	82
11	金 と 銀	81
12	ヴァイオリン協奏曲 (メンデルスゾーン)	76
13	小犬のワルツ	75
14	G線上のアリア	75
15	月光の曲	74
16	熊蜂はとぶ	72
17	運命交響曲	71
18	チゴイネルワイゼン	70
19	ピッチカートポルカ	68
20	田園交響曲	68
21	舞踏への誘い	66
22	トッカータ・フーガ	52
23	未完成交響曲	50
24	ペトルシュカ	48
25	合唱交響曲第4楽章	46
26	謡 曲 高 砂	15

な曲の意味。

嫌いな曲 はむずかしくてわからない曲、嫌いな曲、何とも感じない曲の意味。

表9は好きな人数の多い方から順に配列したもの。

IV. 研究結果

音楽の基礎調査における音感の優れた者について、また劣っている者について、それぞれ20名を選んで、他の能力との関係を調べてみた。

次の表は、Ⅲの研究の経過の項の調査資料に基づいて、その関係を調査したものである。

1. 音感の最も劣っている者 (20名) についての関係

イ. 視唱、階名読との関係 次の表10の通り。  
表10

	悪 い	普 通	よ い
視 唱	14	6	0
階 名 読 GF	15	2	3

ロ. 知能との関係 次の表11の通り。

表11

知 能 偏 差 値	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
人 数	1	2	4	9	3	1

ハ. 旋律に対する音感覚との関係 次の表12の通り。

表12

誤答数	0	1	2	3	4	5	6
人 数	5 (14)	6 (27)	3 (27)	2 (12)	1 (8)	1 (1)	2 (2)

(括弧の数字は学年全体に対する数字)

2. 音感の最も優れている者 (20名) についての関係

イ. 視唱、階名読との関係 次の表13の通り。

表13

	悪 い	普 通	良 い
視 唱	1	10	9
階 名 読 GF	0	10	10

ロ. 知能との関係

表14

知能偏差値	50~59	60~69	70~79	80以上
人数	2	8	8	2

ハ. 旋律に対する音感覚との関係 次の表15の通り。

表15

誤答数	0	1	2	3	4	5	6
人数	2 (14)	5 (27)	9 (27)	3 (12)	1 (8)	0 (1)	0 (2)

V. 結 論

この研究は、もとより結論を望んだのではなく、将来に求めたのであるから、ここでは、この調査から考えられる事柄について拾ってみたい。

1. 基礎的な音感について

リズム聴音、旋律聴音、視唱などでは、問題の難易は多少あるにしても、この程度の問題に対して、できない者の多いのは、この年代層の音感の発達は遅々として可なり困難であり、中学における音楽学習として取り上げるに、いろいろの問題があるのではないか。

2. 旋律の感じについての音感

旋律の感じにしても、自然な旋律にしてもこの判断力は、基礎的な音感に比べると、割合に容易のようである。即断は危険かと思う

が、音楽学習もこんな点に重点をおき、強弱、速度、リズムなどの自然、不自然、調和、不調和の音感に対する教育の研究をすべきではないか。

3. 鑑賞曲、歌唱曲に対する生徒の関心について

研究方法の3、4の表で大体わかりますがただ、この表に出さなかったもので、男女の数の比較である。これは鑑賞曲、歌唱曲の殆んどが男子の方が関心度が高いことである。ただ、G線上のアリアと月光の曲だけが女子が多いのである。

男子が聞きたい曲、歌いたい曲に、女子よりも関心があるということは、一般に男子より女子が音楽を好むといわれていることに対して考えさせられる問題であろう。

4. 基礎的な音感の優劣は何を意味するか

- a. 視唱、読譜に大いに関係がある。
  - b. 知能とは余り関係はない。
  - c. 旋律に対する音感覚とは余り関係はない
- 以上結論ではない感想を述べたが、いづれにしても、今後の研究の足がかりとしての記録であり、殊に基礎的な音感と旋律に対する感じ、自然、不自然などの音感とは、それぞれ、音楽教育にどのように結びついているのか、またどのようにあるべきが自然か、そのことが今日の音楽教育を反省し、高校入試の問題にまで言及できるとすれば幸である。